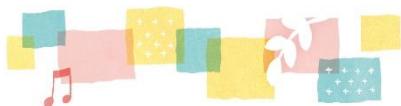


第4ブロック研究部



NO. 2

令和7年度 研究主題

遊びの中の学びを探る

研究園

五条 真田山 味原 大江 生魂 鶴橋

常盤 長吉 長吉第二 瓜破北 加美北

6月 第2回研究部会

日 時 令和7年6月18日(水) 13:00~17:00

場 所 大阪市立瓜破北幼稚園

【研究保育当日の教師の願い】

- 3歳児 ・いろいろな遊びに興味をもち、自分のしたい遊びを見つけて楽しんでほしい。
- 4歳児 ・遊んだことを友達に伝えたり、遊びにより思いをもったりして楽しんでほしい。
- 5歳児 ・気付いたことや考えたことなどを友達と共有することで、次の遊びへの期待や意欲をもってほしい。

当日の遊びの様子

泥だんごづくりをする

たらいに入った泥水を砂山に繰り返しかけたり、泥だんごをつくって遊んだりしていた。つくった泥だんごを潰れないように容器に入れて大事にしようとしていた。



ままごとをする

「いらっしゃいませ」「どうぞ」と教師と会話をしながら遊び、やりとりをしていた。



色水遊びをする

花や草を摘み、すり鉢やすりこぎを使って色水をつくっていた。また、指で実をつぶしたり茶こしを使ってすりつぶしたりして色水をつくっていた。



たたき染めをする

コーヒーフィルターやケント紙などのいろいろな紙を使って、摘んだ花を挟んでたたき、色が移るか試していた。3歳児は色が染まらなくても繰り返し、たたいていた。



藻取り・土踏みをする

スプーンを使って藻と一緒に生き物をすくったり、虫網や木の棒を使って生き物を捕まえたりしていた。

田んぼの土で「おいしくなーれ」と言いながら土を踏んだり、泥の感触を楽しんだりしていた。



泥んこ遊びをする

樋を高い場所から渡して水を流したりウメの実を転がしたりしていた。池をつくるために穴を掘ったり、穴を掘っているうちに大きな石を掘り当てたりしていた。



分科会

遊びごとに分科会に分かれ、以下の視点で討議しました。

- 視点① 学びを生み出すあるいは学びになるであろう姿は見られましたか。
- 視点② ①の時の子どもは、何を学んでいたと思いますか。
- 視点③ この環境の中で、学びにつながるどのような遊びが考えられますか。

【泥だんご・ままごと】

- ①
 - ・たらいに入った泥水を砂山に繰り返しかける姿
 - ・砂場で泥だんごをつくって遊び、潰れないように容器に入れる姿
 - ・ままごとで「いらっしゃいませ」「どうぞ」と教師とやりとりを楽しむ姿

- ②
 - ・今まで5歳児が遊んでいる姿を見て、まねてどうなるか試す
 - ・容器の大きさや深さを探る
 - ・自分のしていることを教師と共有したり、日常の経験を遊びにつなげたりしている
- ③
 - ・泥だんごの遊びでは、場が離れているが、今後土山の土と砂場の砂を近くにすることで、土と砂の性質の違いに気付くのではないか
 - ・ままごと遊びでは、生活経験や生活様式の変容により子どもたちのやりとりの内容も変化していく。子どもと一緒に環境の再構成をしながら遊ぶことでより学びが豊かになる

【色水遊び】

- ①
 - ・花の色や水の量を工夫して繰り返し試したり、色を比べたりする姿
 - ・自分の思いを表現して遊ぶ姿
- ②
 - ・水の量や素材の違いに気付く
 - ・自分の考えたものができた達成感
- ③
 - ・豊富な自然に触れて遊ぶ中で、自分で種まきをした植物など身近な自然環境に関心をもつているからこそ見られた姿と考えられ、今後も試行錯誤を重ね継続していく中で様々な学びがあると考えられる

【藻取り・土踏み】

- ①
 - ・スプーンを使って丁寧にすくおうとする姿
 - ・ミミズを一生懸命探し、友達と協力しながら捕まえる姿
 - ・手や足を使って感触を楽しむ姿
- ②
 - ・繰り返し遊ぶ中で発見を繰り返している
 - ・生き物を大切にし、丁寧に関わる
 - ・砂場と違う感触に気付き性質に興味をもつ
- ③
 - ・この遊びを通し、命のつながりを学んだり、学びを生活や人生に生かしたり結び付けたりしている

【たたき染め】

- ①
 - ・5歳児がいろいろな紙で繰り返し試して遊ぶ姿
 - ・いろいろな形に切っていくことでペンダントをつくる姿
- ②
 - ・素材の違いに気付く
 - ・自分で染めたもの、ペンダントにしたい、という思いで最後まで根気よく取り組む
- ③
 - ・たたき染めしたものを人形の服に見立てて遊んだり、様々な染め方に挑戦したりすることで遊びに使うものを自分でつくる楽しさを感じたり様々な自然物から出る色の美しさに気付いたりすることができるのではないか
 - ・紙を子どもたちと実際に触ってみて、紙の素材による感触の違いを子どもがどのように感じるか、感じたことや子どもなりに考えた言葉で紙の材質の違いを表示することも学びにつながる

【泥んこ遊び】

- ①
 - ・土を掘ると中から出てきた石を宝石や恐竜の化石などとイメージをもつ姿
 - ・樋にウメを転がし、友達が樋の先をバケツで受け止めるなどして、協力して遊ぶ姿
- ②
 - ・イメージを共有してもらいたいという気持ちをもつ
 - ・友達と一緒に転がる様子を見たり、試したりして楽しんでいる
- ③
 - ・石に化石や恐竜のイメージをもっていたことや博物館好きの子どもがいるとの話から、今後石を恐竜の形に並べて遊ぶなどの姿が出てくることも予想される
 - ・ウメを使った遊びでは、色水遊びとつなげることで匂いにも気付いていくと考えられる

指導講評

大阪市総合教育センター 教育振興担当 指導主事

- ・幼児期における育ちと学びについて、幼稚園教育要領でも育ちと学びははっきりと分かれているわけではなく、グラデーションのようになっている。だが、「育ち…その子らしい成長のプロセス→安定的な姿」「学び…気付きが深まる過程→思考・試行している姿」と考えることができるのではないか。
- ・「育ち」と「学び」を支えるものとして大切なことは、遊び・友達や先生との関わり・環境構成・教師の教育的意図をもった働きかけである。一番大切なのは、幼児の姿を捉えることである。

学んだこと

- 同じ遊びの中にも様々な学びにつながる姿が見られた。目の前の子どもの姿を捉え、どのような学びがあるのかを教師が考え続けることが大切だと学んだ。
- 学びと育ちははっきり分かれているものではなくグラデーションのようになっていることが分かった。子どもが遊びの中でどのような気付きを得ているのかを探り、遊びを支えることで、より学びが深まることを学んだ。